

新年のご挨拶

皆さん明けましておめでとうございます。
います。

今年の正月三ヶ日は、積雪もなく、まずまずの穏やかな天候に恵まれ、恒例の餅つき・餅まきも駅舎前で予定どおり行い、和やかな賑わいの場を、多くのお客様と一緒にすることができました。

ただ、他の地域に目を向けますと、元日から大地震に見舞われた能登半島では、多くの尊い命が犠牲になり、未だ行方の分からない方がおられるという悲惨な状況がなお続いております。

犠牲になられた皆様、被災された皆様に、心からお悔やみ、お見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、去年は、新型コロナウイルスの感染拡大は完全収束とはなりませんでしたが、5月に5類へ指定移行されたことも影響したのか、急速に人と物の流れが活発化してまいりました。

そして、「道の駅たかの」におきましても、徐々に来場者も回復し、特に秋以降は、特産のりんごや大根、美味しいお米など新鮮な庄原産品を求めて、多くのお客様にお越しいただいております。

また、オンラインショップの開設や、広島市内をはじめとする外部販売イベントの積極開催など、お客様の来訪を待つだけでなく、販売方法の多様化を図ることで、出荷される皆さんの期待に更に添えるようスタッフ一丸となって努力しております。

道の駅たかの 2024.1.19

(広報・企画グループ)

庄原市高野町下門田49

☎0824-86-3131

michieki_tak@takanoyama.jp

<https://www.takanoyama.jp>

★Twitter・インスタも更新中♪



集合写真（1月1日）



先着100名、1回500円で開催した「新春運試しガラポン抽選会」はわずか30分で終了。
毎年恒例の餅つき・餅まきにも多くのお客様にご参加いただき、盛況でした♪

今年、12年目を迎える「道の駅たかの」ですが、今後も、出荷者の皆さんとの連携と地域へのこだわりを更に高め、この地で育まれた「旬の美味しさ」を、より多くのお客様に届けていきたいと思っております。

また、道の駅は、単に道路の利用者や観光客に向けた営業だけではなく、出荷者や地域の住民の皆さんに気軽にご利用いただける施設でなければと考えますので、なお一層のご利用やご支援・ご協力をお願いいたします。

今年も、ここにしかない「オンリー・ワン」の魅力を、「道の駅たかの」から多方面に発信できるよう、「真心ブランド」・「笑顔のふれあい」・「まちの元気印」をモットーに、元気いっぱいがんばります。

道の駅たかの 駅長 根波 裕治

裏面につづく♪

ふれあい共同作業所くちわ 支援員 山脇 圭介さん（口和町）

口和町の就労支援施設「ふれあい共同作業所くちわ」で職業指導員をしております、山脇 圭介と申します。

当施設は1993年に開所し、2004年に社会福祉法人化、昨年で開所から30年を迎えました。

通常の事業所などに雇用されることが困難で、雇用契約に基づく就労が困難な、障がいのある方などに対して、就労や生産活動の機会を提供し、その他就労に必要な知識や能力の向上の為に必要な訓練、支援を行う「就労継続支援B型」という障害福祉サービスを提供する施設です。

利用者は口和町内、旧庄原市、高野町、三次市君田町の方など様々で、利用者の年齢層も20代前半から70代までと幅広いです。

主な活動として、木工品の製造と道の駅やオンラインショップでの販売、アルミ缶の回収と回収業者への持込、庄原市の施設の清掃や小中学校の草刈りなどを行い、その収益を「工賃」として利用者にお支払いしています。



支援員の山脇さん（写真右）と、木工品を製造する利用者の皆さん。



糸のこ盤で木材をカットする様子。かなり手慣れた様子で作業されていました。

利用者に指導する際、一つの事を覚えるのに時間がかかることや、わかり易く伝えつつもりでも理解してもらえないことは多々ありますが、それら乗り越えて、仕事を覚えてもらえたときは大変嬉しく思います。

昨年は当施設から3名が他所に活躍の場を移しています。1名は雇用契約のある「就労継続支援A型」の施設へ、2名は一般企業へ就職をされています。

地元の企業様にて施設外就労を行っていた際に、利用者の仕事ぶりが社長の目に留まり、「是非うちで働いてみませんか」というお声掛けをいただいて、そのまま就職するケースもありました。

今後も地域の利用者が、自分の活躍できる場所へステップアップしていくお手伝いを続けていきたいと考えています。



道の駅たかので販売している木工品。子供連れのお客様に大人気。